

令和6年度 年間指導計画

A科:生物科学科 B科:環境科学科 C科:食農科学科

教科名	地理歴史	科目名	世界史探究	単位数	2	履修学年・クラス	3学年A科・C科	
担当者	使用教材 「高等学校 世界史探究」(第一学習社)、「ダイアログ歴史総合」(第一学習社)							
学習目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。							
学習方法	<p>①世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる。</p> <p>②世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする。</p> <p>③日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めるため、世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について多面的・多角的に考察する。</p>							
学習評価	評価の観点	科目の評価の観点の趣旨						
	知 識・技能(技術)	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。						
	思 考・判断・表現	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。						
主体的に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする。また、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重する態度が見られる。							
※定期考査については、上記の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。								

学 期	単元(題材)	学習内容	評価の観点	単元(題材)の評価規準	評価方法
			知 思 態		
前期 中期	第1編 地球環境から見る人類の歴史 「日常生活から見る世界の歴史」	・地球の誕生から現生人類の登場、その地球規模での拡散の様子などを取り上げ、地球の歴史の中で人類の歴史が占める位置、生活や文化の多様性などを考察し表現することにより、人類の歴史と地球環境との関わりを理解する。 ・身の回りの諸事象と歴史との関連性などについて考察し表現することにより、私たちの日常生活が世界の歴史とつながっていることを理解する。	○	・地球の誕生から現生人類の登場、その地球規模での拡散の様子などを取り上げ、人類の歴史と地球環境との関わりを理解する。 ・地球の歴史の中で人類の歴史が占める位置、生活や文化の多様性などを考察し表現する。 ・身の回りの諸事象と歴史との関連性などについて考察し表現することにより、私たちの日常生活が世界の歴史とつながっていることを理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト
	第2編 第1章 諸地域の歴史的特質 第2章 古代文明の歴史的特質 第3章 諸地域の歴史的特質	・生業、身分・階級、王権、宗教、文化・思想などの資料を基に、諸地域の歴史的特質を読み解く。 ・農耕・牧畜の起こりから各地に古代文明が形成される頃までを総合的に扱い、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを考察したり表現したりして、古代文明の歴史的特質を理解する。 ・東アジアと中央ユーラシア、南アジアと東南アジア、西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解する。	○	・資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。 ・複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現する。 ・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	
	第3編 第1章 諸地域の交流・再編 第2章 結びつくユーラシアと諸地域 第3章 アジア諸地域とヨーロッパの再編	・交易の拡大、都市の発達、国家体制の変化、宗教や科学・技術及び文化・思想の伝播などの資料を基に、情報を読み取ったりまとめたりすることにより、諸地域の交流・再編を読み解く。 ・海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりについて、西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会と11～13世紀の農業技術の革新、14世紀以降の国王中央集権化、宋の社会とモンゴル帝国の拡大について学び、ユーラシアを海域と内陸で循環する交通・交易体系をつくり上げたことを学習する。 ・宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争、大西洋三角貿易の展開、科学革命と啓蒙思想の学習を通じて、宗教改革の意義、大西洋両岸諸地域の経済的連関の特徴、主権国家の特徴と経済活動との関連、ヨーロッパの社会や文化の特色などを、多面的・多角的に考察し表現することにより、主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解する。	○	・交易の拡大、都市の発達、国家体制の変化、宗教や科学・技術及び文化・思想の伝播などの資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。 ・海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりについて、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現する。 ・宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争、大西洋三角貿易の展開、科学革命と啓蒙思想の学習を通じて、宗教改革の意義、大西洋両岸諸地域の経済的連関の特徴、主権国家の特徴と経済活動との関連、ヨーロッパの社会や文化の特色などを、多面的・多角的に考察し表現することにより、主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解する。 ・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
後期 中期	第4編 第1章 諸地域の結合・変容 第2章 世界市場の形成と諸地域の結合 第3章 帝国主義とナショナリズムの高揚	・人々の国際的な移動、自由貿易の広がり、マスメディアの発達、国際規範の変容、科学・技術の発達、文化・思想の展開などに関する資料を活用し、課題を解決する。 ・産業革命と環大西洋革命、イギリス産業革命に始まる経済構造の変容、アメリカ合衆国の成立やフランス革命、ラテンアメリカ諸国の独立などによって、西ヨーロッパとアメリカ合衆国に近代民主主義社会が成立したことを理解する。 ・自由主義とナショナリズムについては、ナポレオン戦争中の抵抗運動や諸改革、ウィーン体制に対する各地での反発、その後軍事力をもって展開されたイタリアとドイツの統一運動など、ヨーロッパで自由主義とナショナリズムが高まったことや国民国家が形成されたことを学ぶ。 ・こうした諸資料を比較したり関連付けたりする学習を通じて、産業革命と環大西洋革命の意味や意義、自由主義とナショナリズムの特徴、南北アメリカ大陸の変容などを、多面的・多角的に考察し表現する。 ・最新の科学技術と大規模資本を必要とする第二次産業革命の進展により、欧米諸国では重化学工業が発展して産業構造が変化したこと、列強諸国による植民地獲得は、南アメリカ戦争や日露戦争から第一次世界大戦に至る、一連の大規模な戦争を伴って展開されたこと、その過程で国内では、愛国主義的な国民意識の高揚が見られたことを学習する。	○	・人々の国際的な移動、自由貿易の広がり、マスメディアの発達、国際規範の変容、科学・技術の発達、文化・思想の展開などに関する資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、資料から情報を読み取ったりまとめたりできる。 ・産業革命と環大西洋革命、自由主義とナショナリズム、南北戦争の展開など、国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解する。 ・国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア諸国の植民地化と諸改革などを基に、世界市場の形成とアジア諸国の変容を理解する。 ・大西洋両岸諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸資料を読み解き、産業革命と環大西洋革命の意味や意義、自由主義とナショナリズムの特徴、南北アメリカ大陸の変容について考察、表現できる。 ・第二次産業革命と帝国主義諸国の抗争、アジア諸国の変革などを基に、世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解する。 ・第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成、アメリカ合衆国の台頭、アジア・アフリカの動向とナショナリズムなどを基に、第一次世界大戦の展開と諸地域の結合を構造的に理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト
	第4章 第2次世界大戦と諸地域の結合	・世界恐慌とファシズムの動向、ヴェルサイユ・ワシントン体制の動揺など学習する。 ・第二次世界大戦の展開と大戦後の国際秩序、冷戦とアジア諸国の独立の始まりを学習する。 ・国際連合の集団安全保障体制が武力制裁を可能にするなどして国際連盟に比べて強化されたにもかかわらず、冷戦下の五大国の拒否権によって制約を受けたこと、それによって諸国の軍事同盟や国際連合以外の国際機構による紛争解決が試みられたことなどについて学習する。	○	・世界恐慌と国際協調体制の動揺に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、第二次世界大戦に対する諸国家の対応策の共通点と相違点、ファシズムの特徴、第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因などを多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・第二次世界大戦と大戦後の諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、第二次世界大戦中の連合国による戦後構想と大戦後の国際秩序との関連、アジア諸国の独立の地域的な特徴などを考察し、表現できる。 ・先進国の経済成長と南北問題、アメリカ合衆国の覇権の動揺、資源ナショナリズムの動きと産業構造の転換、アジア・ラテンアメリカ諸国の経済成長と南南問題、経済のグローバル化などを基に、格差是正の取組と課題を理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
	第5編 第1章 地球世界の課題 第2章 冷戦と脱植民地化 第3章 国際秩序の変容	・西欧諸国や日本が経済復興を成し遂げ、特に西ドイツや日本で高い経済成長が見られたこと、先進工業国と脱植民地化を果たした第三世界との間の経済格差が顕著になったことなどを扱い、米川によるアジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国への開発援助の競争が冷戦を背景に行われたこと、国際連合を中心に様々な南北格差の是正の取組がなされたことなどを学習する。	○		